

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200011		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら朝日ヶ丘(1階)		
所在地	千葉県千葉市花見川区朝日ヶ丘3-9-33		
自己評価作成日	平成28年11月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成29年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気が1番の魅力です。職員と利用者様が過ごす時間がゆっくりと流れている点が1番外部の方からの声で多く頂いています。利用者様にしてあげられる事を職員全員、経験年数や年齢に関係なく話し合える環境です。玄関入口のベンチで利用者様と日向ぼっこをしていたり、畑や花の手入れをしていると、散歩中のご近所の方が声をかけて頂けていて地域とのご近所付き合いができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「誰1人欠ける事無く1年後を笑って迎える」を今期の年間スローガンに掲げ、職員が居心地良く働ける環境整備に努め、職員の定着率向上を目指しています。ホーム長を中心に日頃から職員に声をかけ、職員間のチームワーク向上に努めています。また、今年度はホーム開設10周年の節目の年を迎え、地域住民や近隣施設等多くの方の参加を受け、10周年記念行事を実施することができました。当ホームは地域住民とも日頃から良好な関係を築くことができ、自治会主催の行事にも積極的に参加しています。バス旅行にも利用者と職員が参加するなど、自治会行事を通じて、利用者も地域の一員として生活を送ることができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域への行事や協力しあう体制や取り組みができています	会社の経営理念、運営理念を朝礼時に唱和するほか、事業所のスローガン「誰1人欠ける事無く1年後を笑って迎える」を定め事業計画書に明記し年度当初の全体会議で職員に周知しています。職員が居心地良く働ける環境整備に努め、職員の定着率向上を目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1回程度地域への行事に参加している	自治会の行事である歌声喫茶、ふれあい喫茶、敬老会に積極的に参加しています。またバス旅行にも利用者と職員が参加し交流を深めています。日頃から挨拶を交わす等、地域とは良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加し、認知症やグループホームについてお話しさせて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	反映しサービスに繋げている	運営推進会議には、地域包括支援センター、民生委員、自治会、社会福祉協議会の方の参加を受け2ヶ月に一度定期的を実施しています。会議では参加者との意見交換を通じて、地域情報の収集などにつなげ、サービス向上につなげていけるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の報告等で連絡や相談をしている	市の担当課との連携においては、運営上の疑問点や困った事が生じた際には担当者に連絡を入れ適宜指示を仰いでいます。市の担当者の丁寧な対応もあり、互いに協力関係を築くことができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。虐待の研修や運営推進会議等でも説明をしている	ホーム内において年2回高齢者虐待防止をテーマとした研修を実施しています。その中で、身体拘束の廃止や利用者の行動制限に関する事等も確認しています。現状ホーム内では身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ周知と現状の振り返りを行っている		

グループホームきらら朝日ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての知識がまだ浅く、教育するレベルでは無い為今後も学んでいく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映しサービスに繋げている	家族からの意見や要望については面会時に直接確認するほか、年2回家族会を開催し、意見や要望等を把握しています。今後は家族参加型の行事を増やし、家族との連携の強化を目指しています。	ホームとしては今後家族参加型の行事を増やしていく事を目標にしており、家族の参加が高まる事で、家族との連携がより一層高まる事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日常の中で職員と話合っている	ホーム長は日頃から各ユニットの職員に声をかけ、いつもと変わった様子が無いか、不満に思う事等を確認し、職員が働きやすい環境を目指しています。また会社全体として心のホットラインや社長へのダイレクトボックスなどを通じて意見を表出できる機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人に合わせた教育をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホーム等と情報交換や見学等行っている		

グループホームきらら朝日ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りや家族様からの情報を元に行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時等に家族からの聞き取りを行いサービスの質の向上に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて福祉用具の導入や必要な物やサービスの整備を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に役割等を持って頂くと同時に感謝の気持ちを伝えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との繋がりに関しては実際に来訪して下さる家族とそうでない家族がいる為家族絡みの発言には注意を払っているが、家族との思い出や今度外出する話などを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際に会ってお話する等の機会の提供はできていないが、コミュニケーションの中で取り入れている	ホーム入居後においても馴染みの人や場所との関係が途切れないように、家族の協力を得て馴染みの理髪店を活用したり、親族が来訪された際にはホーム2階のファミリールームを活用しゆっくり過ごして頂く等、ホーム側もできる限り配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せず、皆の一員と思って頂ける支援をしているが、トラブルには細心の注意が必要		

グループホームきらら朝日ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の近況を報告しあい関係性が継続できている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者とリーダーを中心に意向を組み込んだプランの作成をしている	利用者の意向や要望については、日常会話から直接収集しています。食べたい物の要望が出た際には食事メニューに反映したり、外出の要望には個別で外出にお連れする等、利用者本位に検討しています。	ケアプランの更新の際にはアセスメントを実施していく仕組みとしていますが、現状定期的な実施とまでは至っていない事もあり、今後の取り組みを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染の暮らし方を継続しようと心がけているが、実際にできない事も多い為継続して見直し検討が必要		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニット会議等で情報の共有が出来る		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リーダーと計画作成担当者を中心に課題について話し合いを行えている	担当者会議において、職員、主治医、看護師、薬剤師の意見を総合的に踏まえケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標に対する利用者の満足度や達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	毎月のモニタリングを通じて目標の達成状況等を確認していますが、ケアプランの更新に合わせて、モニタリングの総合評価の実施も期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきの部分を共有し反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状新しいニーズがなく、多機能化できていないが今後は必要に応じて柔軟な対応を検討していく		

グループホームきらら朝日ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、近所のスーパー等を利用し活用できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療以外にも必要に応じて随時相談と情報共有を行っている	提携先医療機関による往診が月2回あるほか、訪問看護師も週に一度来所され、利用者の健康状態を確認しています。医療機関や訪問看護とは24時間連絡が取れる体制とし、緊急時にも迅速に対応できる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の視点での気づきを職員と提携医と共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の変化に気づいたらすぐに受診や提携医に相談し対応できている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と現状についての話し合いと最終的な意向について話し合いできている	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。ホームでは主治医、訪問看護、家族等と連携し、終末期ケアまで対応する体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や利用者様に応じた必要な対応については共有できているが、新入職員が現状実践力を身につけられていない為研修が必要		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルについて定期的に見直しているが、実践力はまだまだ足りない現状	災害時を想定し今年度7月と2月に避難訓練を実施しています。2月の訓練では消防署立会いで実施しています。ホーム内には災害に備え備蓄品の保管や地震や水害を想定したフローを事務所に掲示しています。	今後に向けては、地域の協力体制を確保すると共に、災害時において、利用者の安否をどのような手段で家族に報告するのか、より明確になる事を期待します。

グループホームきらら朝日ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した対応をしている。スピーチロックに関してはまだ勉強が必要	利用者への声かけや接し方等については日頃から職員に注意を呼び掛け、不適切な対応に繋がらないように取り組んでいます。居室への入室やトイレ誘導時の声かけについてもプライバシーに配慮して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向を聞き取り反映している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースでの生活が全員できている状態ではなく、排泄介助や食事介助の時間の都合上職員の方で時間を設けている事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際に選んで頂く機会を設けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好を反映しメニューに取り入れている。食事作成や片づけも役割を持って行っている	食事作りも支援の一環として捉え、食材の買い物から調理準備に至るまで利用者の主体的な関わりを大切にしています。食事を楽しむ工夫では、お寿司外食やファミリーレストランへ甘味物を食べに出かけたり、またホーム敷地内において野菜の栽培なども行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考慮したメニューを心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否がある方もいるが、声かけと必要な対応は行っている		

グループホームきらら朝日ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し都度対応している	利用者一人ひとりの排泄状況は「生活リズム・パターンシート」に記録し、職員全体で共有しています。トイレでの排泄を基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や乳製品等を考え提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人のペースでの入浴ができています	入浴については体調を考慮し、週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。利用者の好みの入浴剤の使用や音楽をかける等の工夫を図り、入浴が楽しめるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠しやすい環境の検討と必要に応じて入眠導入剤の相談を提携医と行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては職員が必ず介入している。また服薬量の調整は提携医と都度相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を出来るだけ反映できる様に支援に取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日に決める事は出来ないが事前に聞き取りをして外出に反映できるように心がけている	天候の良い日にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、食材の買い物同行や敷地内の庭の手入れなど、戸外での活動も大切にしています。また臨海公園や動物公園、花の美術館等への外出行事も行い、戸外活動の充実に取り組んでいます。	外出行事等の行事終了後において、「行事報告書」において行事内容の振り返りや次回に向けた反省点等を明確にされることを期待します。

グループホームきらら朝日ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が行える方が現在いない為行えていないが、必要に応じてその方に合った支援も取り入れる姿勢でいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での家族との交流は希望に応じて時々行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や明かり等注意を払っている。利用者様の希望に応じて都度対応している	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と談笑ができる環境を整備している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や必要に応じて好きな物を導入している	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物や今行えている事がやりやすい環境を整えている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200011		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら朝日ヶ丘(2階)		
所在地	千葉県千葉市花見川区朝日ヶ丘3-9-33		
自己評価作成日	平成28年11月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成29年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気が1番の魅力です。職員と利用者様が過ごす時間がゆっくりと流れている点が1番外部の方からの声で多く頂いています。利用者様にしてあげられる事を職員全員、経験年数や年齢に関係なく話し合える環境です。玄関入口のベンチで利用者様と日向ぼっこをしていたり、畑や花の手入れをしていると、散歩中のご近所の方が声をかけて頂けていて地域とのご近所付き合いができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「誰1人欠ける事無く1年後を笑って迎える」を今期の年間スローガンに掲げ、職員が居心地良く働ける環境整備に努め、職員の定着率向上を目指しています。ホーム長を中心に日頃から職員に声をかけ、職員間のチームワーク向上に努めています。また、今年度はホーム開設10周年の節目の年を迎え、地域住民や近隣施設等多くの方の参加を受け、10周年記念行事を実施することができました。当ホームは地域住民とも日頃から良好な関係を築くことができ、自治会主催の行事にも積極的に参加しています。バス旅行にも利用者と職員が参加するなど、自治会行事を通じて、利用者も地域の一員として生活を送ることができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域への行事や協力しあう体制や取り組みができています	会社の経営理念、運営理念を朝礼時に唱和するほか、事業所のスローガン「誰1人欠ける事無く1年後を笑って迎える」を定め事業計画書に明記し年度当初の全体会議で職員に周知しています。職員が居心地良く働ける環境整備に努め、職員の定着率向上を目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2か月に1回程度地域への行事に参加している	自治会の行事である歌声喫茶、ふれあい喫茶、敬老会に積極的に参加しています。またバス旅行にも利用者と職員が参加し交流を深めています。日頃から挨拶を交わす等、地域とは良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加し、認知症やグループホームについてお話しさせて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	反映しサービスに繋げている	運営推進会議には、地域包括支援センター、民生委員、自治会、社会福祉協議会の方の参加を受け2ヶ月に一度定期的を実施しています。会議では参加者との意見交換を通じて、地域情報の収集などにつなげ、サービス向上につなげていけるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の報告等で連絡や相談をしている	市の担当課との連携においては、運営上の疑問点や困った事が生じた際には担当者に連絡を入れ適宜指示を仰いでいます。市の担当者の丁寧な対応もあり、互いに協力関係を築くことができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。虐待の研修や運営推進会議等でも説明をしている	ホーム内において年2回高齢者虐待防止をテーマとした研修を実施しています。その中で、身体拘束の廃止や利用者の行動制限に関する事等も確認しています。現状ホーム内では身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ周知と現状の振り返りを行っている		

グループホームきらら朝日ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての知識がまだ浅く、教育するレベルでは無い為今後も学んでいく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映しサービスに繋げている	家族からの意見や要望については面会時に直接確認するほか、年2回家族会を開催し、意見や要望等を把握しています。今後は家族参加型の行事を増やし、家族との連携の強化を目指しています。	ホームとしては今後家族参加型の行事を増やしていく事を目標にしており、家族の参加が高まる事で、家族との連携がより一層高まる事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日常の中で職員と話合っている	ホーム長は日頃から各ユニットの職員に声をかけ、いつもと変わった様子が無いか、不満に思う事等を確認し、職員が働きやすい環境を目指しています。また会社全体として心のホットラインや社長へのダイレクトボックスなどを通じて意見を表出できる機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人に合わせた教育をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホーム等と情報交換や見学等行っている		

グループホームきらら朝日ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りや家族様からの情報を元に行えている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時等に家族からの聞き取りを行いサービスの質の向上に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて福祉用具の導入や必要な物やサービスの整備を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に役割等を持って頂くと同時に感謝の気持ちを伝えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との繋がりに関しては実際に来訪して下さる家族とそうでない家族がいる為家族絡みの発言には注意を払っているが、家族との思い出や今度外出する話などをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際に会ってお話する等の機会の提供はできていないが、コミュニケーションの中で取り入れている	ホーム入居後においても馴染みの人や場所との関係が途切れないように、家族の協力を得て馴染みの理髪店を活用したり、親族が来訪された際にはホーム2階のファミリールームを活用しゆっくり過ごして頂く等、ホーム側もできる限り配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せず、皆の一員と思って頂ける支援をしているが、トラブルには細心の注意が必要		

グループホームきらら朝日ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の近況を報告しあい関係性が継続できている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者とリーダーを中心に意向を組み込んだプランの作成をしている	利用者の意向や要望については、日常会話から直接収集しています。食べたい物の要望が出た際には食事メニューに反映したり、外出の要望には個別で外出にお連れする等、利用者本位に検討しています。	ケアプランの更新の際にはアセスメントを実施していく仕組みとしていますが、現状定期的な実施とまでは至っていない事もあり、今後の取り組みを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染の暮らし方を継続しようと心がけているが、実際にできない事も多い為継続して見直し検討が必要		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニット会議等で情報の共有が出来る		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リーダーと計画作成担当者を中心に課題について話し合いを行えている	担当者会議において、職員、主治医、看護師、薬剤師の意見を総合的に踏まえケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標に対する利用者の満足度や達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	毎月のモニタリングを通じて目標の達成状況等を確認していますが、ケアプランの更新に合わせて、モニタリングの総合評価の実施も期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきの部分を共有し反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状新しいニーズがなく、多機能化できていないが今後は必要に応じて柔軟な対応を検討していく		

グループホームきらら朝日ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、近所のスーパー等を利用し活用できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療以外にも必要に応じて随時相談と情報共有を行っている	提携先医療機関による往診が月2回あるほか、訪問看護師も週に一度来所され、利用者の健康状態を確認しています。医療機関や訪問看護とは24時間連絡が取れる体制とし、緊急時にも迅速に対応できる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の視点での気づきを職員と提携医と共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の変化に気づいたらすぐに受診や提携医に相談し対応できている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と現状についての話し合いと最終的な意向について話し合いできている	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。ホームでは主治医、訪問看護、家族等と連携し、終末期ケアまで対応する体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や利用者様に応じた必要な対応については共有できているが、新入職員が現状実践力を身につけられていない為研修が必要		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルについて定期的に見直しているが、実践力はまだまだ足りない現状	災害時を想定し今年度7月と2月に避難訓練を実施しています。2月の訓練では消防署立会いで実施しています。ホーム内には災害に備え備蓄品の保管や地震や水害を想定したフローを事務所に掲示しています。	今後に向けては、地域の協力体制を確保すると共に、災害時において、利用者の安否をどのような手段で家族に報告するのか、より明確になる事を期待します。

グループホームきらら朝日ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した対応をしている。スピーチロックに関してはまだ勉強が必要	利用者への声かけや接し方等については日頃から職員に注意を呼び掛け、不適切な対応に繋がらないように取り組んでいます。居室への入室やトイレ誘導時の声かけについてもプライバシーに配慮して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向を聞き取り反映している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースでの生活が全員できている状態ではなく、排泄介助や食事介助の時間の都合上職員の方で時間を設けている事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際に選んで頂く機会を設けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好を反映しメニューに取り入れている。食事作成や片づけも役割を持って行っている	食事作りも支援の一環として捉え、食材の買い物から調理準備に至るまで利用者の主体的な関わりを大切にしています。食事を楽しむ工夫では、お寿司外食やファミリーレストランへ甘味物を食べに出かけたり、またホーム敷地内において野菜の栽培なども行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考慮したメニューを心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否がある方もいるが、声かけと必要な対応は行っている		

グループホームきらら朝日ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し都度対応している	利用者一人ひとりの排泄状況は「生活リズム・パターンシート」に記録し、職員全体で共有しています。トイレでの排泄を基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や乳製品等を考え提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人のペースでの入浴ができています	入浴については体調を考慮し、週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。利用者の好みの入浴剤の使用や音楽をかける等の工夫を図り、入浴が楽しめるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠しやすい環境の検討と必要に応じて入眠導入剤の相談を提携医と行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては職員が必ず介入している。また服薬量の調整は提携医と都度相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を出来るだけ反映できる様に支援に取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日に決める事は出来ていないが事前に聞き取りをして外出に反映できるように心がけている	天候の良い日にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、食材の買い物同行や敷地内の庭の手入れなど、戸外での活動も大切にしています。また臨海公園や動物公園、花の美術館等への外出行事も行い、戸外活動の充実に取り組んでいます。	外出行事等の行事終了後においては、「行事報告書」において行事内容の振り返りや次回に向けた反省点等を明確にされることを期待します。

グループホームきらら朝日ヶ丘(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が行える方が現在いない為行えていないが、必要に応じてその方に合った支援も取り入れる姿勢でいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での家族との交流は希望に応じて時々行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や明かり等注意を払っている。利用者様の希望に応じて都度対応している	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と談笑ができる環境を整備している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や必要に応じて好きな物を導入している	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物や今行えている事がやりやすい環境を整えている		